



再版
法律格言
一

1

和装本

71
761
1



761

東亞圖書

元老院藏

三八八元

明治十五年三月刊行

法律格言

元老院藏

第
761
1

東
南
學
堂
藏
書

國立
中央
圖書館
藏

三八八
西
藏

元老院藏

法律格三言

商人智之



法肆各言

題字

一

明治十一年六月

陸軍大將兼議長兼議定官
二品大勳位親王 熾仁



法律格言序

法律有二曰性法一曰國

法性法出于性理國法成

于人為又有公法私法而公

法私法之中又有憲法政



法刑法民法商法訴訟法之
別法律之類如此繁矣故其
書極浩瀚而其意義汪洋
洋無際涯學者讀之未易
遽得其要也議官細川君有

見於此頃者譯述法律
格言一書之書者蒼萃先
哲格言以審判法律要旨一
字一語無非金科玉條者
西人嘗稱各國人智漸聚而

成者洵能溢美也西哲又云法律之要在忠厚遂令人之生不害他人接人盡存然之務家夫擴而充之惟人知之由旨武新言今斯

書實為法律家模楷世之從事以學耆玩讀有得則所謂浩瀚汪洋難得其要者始知其歸而於忠厚遂生不害人盡

本然之務者恢乎有餘

地矣哉以爲序

明治十一年七月九日

元老院幹事正四位

勲三等柳原前光撰



序

法律格言

古聖賢名言。稱之為格言。固人之之所宜奉
為令甲。以律其行為者也。然率就人心術上
立說。縱有不遵者。未可悉以法責之也。至
法律格言者。雖非必盡出於古聖賢之口。
然皆法書載之。法學講之。法師以之證其
說。法衙以之斷其訟。遵之者有利。不遵者

有害。其實用之廣。有出於聖經賢傳之上者矣。外國法書浩瀚。英米之法。比佛國法更為繁冗。講之非易。記之固難。而最要之義。則盡於格言矣。故格言之書。在法學明達者。猶為必用之具。豈唯便講法學者也哉。何晏曰。要言不煩。此言也。可以評格言。惹瑪京多斯氏曰。格言者。各國人智之凝聚者也。亦

為論格言之格言。法律格言。世有全書數種。率為之注釋。以供變應活用。為體裁之完者。文嘗闕壯維。噫。見氏字書。格言之門。其所收。或有全書所不載。蓋全書貴詳而不濫。字書貴簡而不遺。故然。、格言貴簡。故摠字書原文。譯之原文。以字分類。今以義相從。以令易解。而其難解者。則一一注明。然亦力

簡不敢辭費。恐負要言不煩之義也。

明治十一年七月

議官從四位 細川潤次郎



緒言

格言ハ原語ニ「マキシム」ト曰フ皆先哲ノ古書ニ出テタル者ニシテ外國ニ行ハル者具サニ全書アリ若其由テ出テタル所ノ書ニ就テ其義ヲ研精セント欲セハ固リ畢生ノ力ヲ竭スニ非サレハ得可カラスシテ其格言ノミヲ採輯セル全書モ亦繁密ニシテ之ヲ譯スルノ容易ナラズ予嘗テ「ブーヴェイエト」ル氏ノ法律字書ニ格言ノ法律ニ属スル者ノ中最要ナル者ヲ載スルヲ見ル此ヲ以テ格言ノ全書ト比較スルニ字書中ノ葉數僅ニ數十ニ過キスシテ其採輯スル所網羅シテ遺サス全書中ニ

載セサル者字書中ニ見ユル者間々之アリ只其全書ニ
ハ部門ヲ分チ註釋ヲ付シ且詞訟ノ案ヲ摘撮シ以テ實
地ノ適用ニ便ニスルノミナリ夫學問ノ道ハ粗ヨリ精
ニ入り卑ヨリ高ニ升ル不易ノ順序ナリ而シテ法律格
言ハ世未タ之ヲ譯スル者アラズ其大畧何物タルヲ知
ル者少シ乃字書中採輯スル者ノ簡單ナルヲ以テ先ツ
之ヲ譯シテ以テ大體ヲ示サントス人若シ此格言ノ理
ニ據リ事ヲ斷スル時ハ法律ヲ以テ世ニ名アル者ト雖
氏以テ大ニ加フルヲナシ「デット、マキント」氏云ヘル
アリ曰ク格言ハ各國人智ノ凝聚セル者ナリト此書ヲ

讀ム者ハ自ラ此語ノ亦格言タルヲ知ラン

明治十年二月

細川潤次郎誌

例言

法律格言ハ「ア」ヴィエ「ル」氏ノ字書ニ據テ譯スルヲ以テ格言ノ順序ハ洋字ノ順序ニ從フ字書ノ體裁自ラ然ラザルヲ得ス然レトモ一洋字ノ部門中ニ類聚セル者固リ意義ノ順序アルヲナシ忽ニシテ君主ノ事ニ係スル者アリ忽ニシテ裁判ノ事ニ係スル者アリ忽ニシテ證書ノ事アリ忽ニシテ財産ノ事アリ之ヲ讀ムニ方ツテ頗ル心目ヲ煩ハスノミナラス會マ其要スル所ノ格言ヲ搜索セント欲スルモ全部ヲ通覽スルニ非サレハ之ヲ檢出スルヲ得ス今其意義ニ由テ部門ヲ分チ

且其順序ヲ定ムル時ハ彼此相照シテ其義自ラ明カナ
リ一ニ註脚ヲ下スノ勞ヲ省キ適用ノ際又搜索ニ便ナ
リ故ニ之ヲ譯スルニ及テハ必ス其順序ヲ變セザルコ
ヲ得ス「ブルーム」氏ノ格言全書ハ意義ニ由テ部門ヲ分
チ且其順序ヲ定ム只憾ムラクハ其書ノ載スル所「
ワイエール」氏ノ載スル所ト異全アリテ格言ノ數モ亦少
シトス之ニ據テ以テ順序ヲ定ムルコトヲ得ス仍テ「
フェル
ベッキ」氏ニ請フテ新ニ其部門ヲ分チ且其順序ヲ定ム「
フェ
ルベッキ」氏ハ又「ブルーム」氏ノ部門ヲ分テルノ意ニ本ッ
キテ之ヲ分チ且其部門ノ繁多ニシテ錯襍セル者ハ再

之ヲ小分シテ更ニ部門ヲ分ツコト左ノ如シ

卷一

- 第一、王位ニ係スルノ格言
- 第二、國政事務ニ係スルノ格言
- 第三、立法事務ニ係スルノ格言
- 第四、裁判職務ニ係スルノ格言
- 第五、裁判管理ニ係スルノ格言
- 第五ノ一、總則

卷二

- 第五ノ二、法律ノ保護スルト、保護セザルトノ

法律
例言
二

事

- 第五、三、宥恕及加重
- 第五、四、原告及被告
- 第五、五、意思未遂犯罪等
- 第六、論理學ノ規則
- 第七、基礎トナル可キ法律ノ原則
- 第七、一、總則及雜則
- 第七、二、道德ノ原則
- 第七、三、寺院及宗教
- 第七、四、不成文律及慣習

卷三

- 第七、五、會及社中
- 第七、六、一人權及義務
- 第七、七、代理人、主人、雇人等
- 第七、八、不能力
- 第七、九、承諾及許允
- 第七、十、連結及連結ヲ解ク事
- 第七、十一、義解
- 第八、財產及權利ヲ得ル事
- 第九、財產ノ權利及義務

第十、財産ノ讓與

卷四

第十一、婚姻及子孫

第十一ノ一、總則

第十一ノ二、後見人及幼者

第十一ノ三、遺囑書

第十二、解説

第十二ノ一、証書ノ解説

第十二ノ二、法律ノ解説

第十三、契約ノ法律

第十四、證據ノ法律

此格言ノ順序ヲ設クルニ付キ宜ク注目ス可キ者ハ格
 言ノ多分ハ之ヲ適用ス可キヲ甚廣ク且種々ニシテ數
 ハ不當ナル順序タルヲ免カレ難キ者アリ此事ハ「
 ルーム氏」其有名ナル著書第一版ノ序文中ニ載スル
 所ナリ假如バ買フ者ヲシテ注意セシメヨトイヘル格
 言及主タル者ヲシテ責ニ任セシメヨトイヘル格言ヲ
 「ルーム氏」ハ之ヲ契約法ノ部ニ入ル而シテ此前ノ格
 言ヲ再財産ヲ得ル法ノ部ニ入レ而シテ後ノ格言ヲハ
 又四箇ノ部ニ入レタリ

此格言ヲ讀ムニ方ツテ讀ム者宜ク常ニ記臆シテ以テ
絶大ノ誤解ヲナサバブルヲカム可キ者アリ蓋格言ノ
中ニハ一二ノ特別ナル目的ニ付テノミ之ヲ作り且之
ヲ用フル者アリ且其中ニハ多少方今ノ立法家ニ由テ
修正セラレタル者アリ此事ニ付キ讀ム者ノ惑ヲ防カ
ント欲スルヲ以テ最緊要トス可キ格言特ニ誤解妄信
ヲ来ス可キ者ト見ユル者ニハ按ヲ加ヘテ注トナセリ
論理學ニ關係セル格言ノ如キハ又宜ク知ル可キヲア
リ此種ノ格言ハ率子純粹ナル論理學ノ原則ナリト雖
氏其事實ニ適用スルニ至テハ却テ他ノ部ニ入ル可キ

者トナル假如バ更ニ大ナル者ハ更ニ小ナル者ヲ含有
ストイヘル格言ハ固リ論理學ニ關係スル者ナリ然レ
氏之ヲ適用スルニ至テハ金ヲ拂フ時ノ金額ニ付テ用
フ可ク不動産ノ更ニ大ナル者ノ中ニ在ル更ニ小ナル
不動産ニ付テ用フ可ク土地家屋賃借期限ノ更ニ長キ
期限中ニ在ル更ニ短キ年限ニ付テ用フ可ク又更ニ大
ナル罪ノ中ニ在ル更ニ小ナル罪ニ付テ用フ可キ者ナ
リ此事ハ「ブルーム」氏ノ格言第百七十四葉ヨリ第百七
十七葉マデヲ見テ知ル可シ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "法律格言" and "卷一".

法律格言

一 法律格言ハ確定セル原則或ハ諺語ナリ、此法律ノ原則ハ一般ニ公正ニシテ且道理ニ合フタル者ト承認セラレタル者ナリ

二 法律格言ハ稍ヤ測量學ノ確論ノ如キ者ナリ（ブライカストロインコメンタリ、第六十八葉格言ハ原則及確證ナリ而シテ一國ノ通習或ハ常法ノ一部ナリ若シ裁判官ノ其格言タルヲ定ムル時ハ議院ニテ議定セル法律ト同一ナルカヲ有ス此格言タルヤ否ヲ定ムルハ陪審ニ在ラズシテ裁判官ニ在リ

(ドクト、エンド、スチデ、ダイエル第一篇第八章法律格
言ハ直ニ之ヲ法律ト看做ス可シ而シテ其他一切此
格言ヲ適用ス可キ場合ハ已ニ定マレル者トス可シ
(コーク、スオン、リットルトン、第十一卷第六十七葉)コ
ク、第四卷(アロウドン第二十七葉)ビノ項

三 此格言ニ付テ一箇ノ難事ハ裁判所ニ於テ此格
言ヲ其場合ニ適用スルコトニ在リ適用スルコトニ付キ
真正ノ方法ハ何ニ由テ此格言ノ生シタルヤヲ考定
スルコトナリ其適用ス可キ場合ノ果シテ此格言ト同
一ノ性質タルヤ或ハ其場合ノ表面上ハ一般ノ規則

ニ入ル者ナレモ其實ハ此ヨリ取除ク可キ者タルヤ
ヲ考定スルコトナリ

四 常法ノ一部タル格言ノ何レヲモ變換スルコトハ
危キ者ナリ(コークセコンド、インステテット、第二
十葉左ニ載スル所ノ者ハ最要ナル格言ナリ

法律格言卷一



法律格言卷一

王位

○國王ハ決シテ死セズ

○法律ハ國王ノ所有中最貴キ遺物ナリ何者國王及其臣民兩カラ法律ニ由テ支配セラレ若シ此法律ナキ時ハ國王モ遺物モ皆之アルナカル可ケレバナリ

○王位ハ正理ニ由テ立ツ者ナリ
皇帝ハ法律ニ拘ハラス
按スルニ此格言ニ付キ後人ノ議スル所少カラズ然レモ

議官

細川潤次郎

譯并註



亦始ヨリ放縱專擅ヲ抑制スル者ニ非ンバアラス
臣民ニ對シテ保固セル所ノ權利ヲ侵スル指シ且其
= 非ニ若シ羅馬ノ法律學者之ヲ以テ財產相續等ノ如
キ特別ナル某々ノ法律ヲ指サバシテ却テ一般ノ法
律ヲ指シタル者トスル時ハ此格言ハ近代ノ說ニ合
ハザル者ト然レモ君主タル者ハ其臣民ヲ管理ス
ル一切ノ法律ニ由テ管理セラル者ニ非ズ又君主
ノ為ニハ多少其國ノ普通ナル法律ヨリ減殺セル特
別ノ法律ヲ設ケタル者トシテ此格言ヲ解スル時ハ
則チ不可ナルケルナシ

○國王ハ其名ノ明ニ記載セラレザル時ハ何レノ成文
法ニ由テ束縛サラル、一ナシ
○國王ハ人ノ權力ノ下ニ在ラズ而シテ神ト法律トノ
下ニ在リ

○皇帝ノ意思ハ法律ノ力ヲ有ス何者其權力ニ付テ作
リタル所ノ王法ニ原語「ロイエル、ロウ」按スルニ由テ人
民ヨリ皇帝ニ附スルニ一切ノ君主權及其力ヲ以テ
スレバナリ按スルニ此格言ハ君主專制ノ原
則ナリ英國今日ノ原則ト異ナリ
○國君ノ精神ハ法律ノ精神及然ル可キ所ノ事理ニ合
同ス可キト假定ス可シ疑フ可キ場合ニ於テハ特
ニ然リトス
○疑フ可キ場合ニ於テ之ヲ假定スルハ常ニ帝王ノ
爲トナルヤウニス可シ
○若シ人君ノ權利ト臣民ノ權利ト集合スル時ハ人君

ノ權利ヲ勝レリトス可シ 按スルニ人民ノ負フ所ノ義務人君ト他ノ臣民トノ

間ニ在ル時人君ニ屬スル 負債ヲ第一ニ辨償ス可シ

○國王ハ其臣民ノ承諾ニ反シテ之ニ賦課スルヲ得

○國王ハ其正シクナスヲ得ル所ノ事以外ハ何事ヲ

モナスヲ得ズ

○國王ハ惡事ヲナスヲ得ズ

○國王ハ人ヲ欺クヲ得ズ又人ニ欺カル、ヲ得ズ

○國王ハ他人ニ損害ト損失トヲ起ス所ノ恩惠ヲ施ス

ヲ得ズ

○國王ノ特權ハ一般ノ文字ニ由テ與フルヲナシ 按スルニ

國王私有財産ニ關スルガ如キノ特權ハ特別ノ證書ヲ有ス可シ

○國王ノ許允ハ確實ノ許允トス可シ

○國王ノ免許狀ハ無効トス可カラズ 按スルニ此免許狀ハ主トシテ貴

族稱號若クハ特權ヲ免許スル時ニ用ユ

○特許ノ箇條ノ不實ナル時ハ其特許モ亦自ラ無効ト

ナル按スルニ昔時英國ニテ國王ヨリ人ニ特許ヲナシテ土地等ヲ與フルヲアリ此時ニ方ツテ若シ

其土地ノ實ニナク又ハ他人ニ屬スルガ如キハ其特許ノ効ナシ

○何人ニモ屬セザル所ノ者ハ我輩ノ君主ニ屬ス

○時ノ經過ハ國王ノ權利ヲ妨クルヲナシ 按スルニ國王ノ權利ニ

付テハ満期ナシ

○時ト處トハ國王ヲ妨クルヲナシ按スルニ國王ノ權ハ其身分ノ特權ニ係ル者ニシテ時及處ノ景況ニ由テ變スルヲナシ

○元老ハ國王身體ノ一部ナリ所謂アライス、カオンセル即樞密議員ニシテ此員ハ國王ノ特旨ヲ以テ親撰セラル故ニ國王身體ノ一部ナリトス

○貨幣ヲ造ルノ權ハ王位ノ權ニ由テ決シテ他ニ渡ス可カラザル王位ノ權内ニ包含スル者ナリ

國政事務

○人ノ保護セララル、ハ國ニ利アリトス

○一人モ其自己ノ財産ヲ不適當ニ使用セザル可キハ其國ノ爲ニ利アル事ナリトス

○各人ノ其財産ヲ適當ニ用ユルハ國ニ利アリトス

○人ヲシテ其財産ヲ妄用セシメザルハ公ケニ利アリトス

○裁判セラレタルノ廢止セラレザルハ國ニ利アリトス

○罪惡ノ罰ヲ蒙ラザル者ナキハ國ニ利アリトス

○訴訟ニ制限アルハ國ニ利アリトス

○人ノ最後ノ遺囑書ノ保護セラル、一ハ國ニ利アリトス

○囚獄ノ保固セラル、一ハ國ニ利アリトス

○王國ニ於テ平和ヲ保チ而シテ何事モ平和ニ反セル事ニ付テ注意シテ防グ一ハ國ニ利アリトス

○人民ノ安寧ハ最上ノ法律ナリ
按スルニ法律ハ人命財産ヲ保護スルヲ取リト雖モ一般ノ幸福ノ為ニハ人ヲ殺ス一及財産ヲ取上グル一此格言ヲ譯シテ曰國ノ安寧ハ最上ノ法律ナリト亦同シ

○人民ノ安寧ハ最上ノ法律ナリ
私ノ便益ハ公ケノ便益ニ輸ク

○財産ニ害アリト雖モ性命ニ助アル所ノ諸事ニ於テハ時トシテ成文法ノ擴充ヲナス可シ

○惡事ノ罰セラレザル一ナカラシムル為ニハ通常許サマル所ノ事モ許サル可シ
按スルニ巡查ノ如キ者入ル一ヲ許サバモ其盜ヲナス者ノ人家ニ入ル一ヲ見ル時ノ如キハ即惡事ヲナス者ノ罰ヲ追ル、一ヲ恐ル一ヲ許ス此類是ナリ

○必要ハ平時ニ方ツテ法ニ合ハザル所ノ者ヲ法ニ合フタル者トナラシム而シテ必要ハ法律ニ代用スル所ノ持權ヲ作ル

○必要ハ法律ヲ有セズ
按スルニ必要ノ場合ニ方ツテ法律ヲ遵守スル一ヲ要セズ

○何事モ必要ナル者ハ合法トス

○必要ハ情理裁判ヲナス

○必要ハ法律ニ勝ツ

○法律ハ公ケノ惡事ヲ容忍スルヨリモ寧ロ私ノ損失ヲ容忍ス可シ

○非常ニ必要ナル場合ニ於テハ何物モ共同ナリトス
按スルニ非常必要ノ場合假如ハ火災ノ時戰鬪ノ時ノ如キニ方ツテハ他人ノ家屋ヲ倒シテ火ノ延焼ヲ防キ他人ノ土地ニ城塞ヲ築クノ類恰モ共同ノ家屋及土地ニ付之ヲ處分スルガ如キヲ得
○必要ハ法律ニ由テ阻メラル、
トスル所ノ事ニテモ必要ハ之ヲ合法トスレバナリ

○法律ハ不便ヲ忍フヨリモ寧ロ損害ヲ忍フ可シ
損害ヲナサレバ不便ヲ避ク可カラザルガ如キ場合ニ於テハ寧ロ人ニ損害ヲ與フルモ不便ヲ與フル可シ

○公ケノ必要ハ私ノ必要ヨリモ大ナル者トス

○公ケノ權ハ私ノ權ニ勝レル者トス

○公ケノ權ハ私ノ双方ノ契約ニ由テ變スルヲ得

○特權ノ國ノ爲ニナラザル者ハ効ナシトス

○私ノ不便ハ公ケノ便益ニ由テ相償フヲ得

○私ノ權利ニ付テ必要ハ人ニ持許ヲ與フ
於テ人ニ損害ヲ與ヘ即人ノ私權ヲ害スルヲ要ノ場合ニ必
ルモ其責ニ任ズルヲナシ故ニ之ヲ持許ト謂フ

○各箇ノ緊要ナル例ハ若干ノ不便アリ此不便ハ其例ノ公益アルニ由テ償ハル可シ

○正シキ原因ノ爲ニハ國王及政府ヨリ我カ財産ヲ取上グルコトヲ得

○時ノ經過ハ政府ノ權ヲ妨ゲズ

○縦ヒ天ノ墜ルコトアリモ裁判ハ必ス之ヲナセ按スルニ據テ裁判スルコトハ他ヲ顧ル勿レ裁判ノ重ス可キコト此ノ如シ

○惠ハ正理ヲ撓ム可カラズカハ正理ヲ破ル可カラズ金ハ正理ヲ壞ル賄賂ヲ用ユ可カラズ何者若シ正理ノ倒レ或ハ正理ヲ放チ又ハ之ヲ守ル時ハ何人モ物

ヲ安全ト保チ或ハ其父ヨリ物ヲ相續シ又ハ物ヲ其子ニ傳フルコトヲ得可キコトヲ望ム可カラザレバナリ

○法律ノ儀式ハ之ヲ守ル可シ

○法律ハ之ニ服従シ及之ヲ遵守スル者ノ爲ノミ之ヲ作ル者ニシテ他ノ目的ノ爲ニ之ヲ作ル者ニ非ズ按ルニ法律ヲ作ルノ目的ハ主トシテ法律ヲ守ル善人ヲ保護スルニ在リテ己ハ主トシテ法律ヲ守ラザル惡人ヲ罰スルコトアリト雖モ到底惡人ヲ懲ラスモ亦善人ヲ保護スルニ外ナラズ

○何ニテモ裁判官ノ權力内ニ在ル所ノ者ハ之ヲ改革ス可カラス

○若シ汝法律ヨリ離ル、時ハ汝ハ導者ナクシテ迷フ

可シ而シテ何事モ何人ノ爲ニモ不定ナル景況ニ見ユ可シ

○裁判ハ正理ヲ立ツ而シテ何ニテモ己ニ裁判セラレタル所ノ事ハ之ヲ取テ信實トス

○裁判權ハ正理ヲ施行スルニ必用ナルニ付キ公益ノ爲ニ用ユル所ノ力ナリトス

○勢力ハ公益ノ爲ニ非サレハ施ス可カラス

○裁判所ノ所爲ハ人ヲ害セザル者トス

○何事モ同一ノ政府ニ属スル所ノ人ヲ安寧及平和ニ保ツニ付キ法律ノ適當ノ施行ヨリモ更ニ善キ者ナ

○更ニ大ナル擾亂ヲナサミル爲ニ官吏ノ公ケニナス

○可キ所ノ事ヲ私ノ人ニ由テ之ヲナスコトヲ許サズ

○若シ裁判ヲ尊敬スルコトノ去ル時ハ其國亡フ

○合法ノ命令ヲナス者ニハ從ハザルコトヲ得ス

○法律ノ執行者ハ己レノ職務ヲ行フニ方ツテ或ハ逃レ或ハ隠ルコトヲ要セス

○裁判ハ何人ヲモ拒ム可カラス

○裁判ハ拒ム可カラス又之ヲ延滞ス可カラス

○保護ハ服従ヲ生シ服従ハ保護ヲ生ス
按スルニ人外國ニ在ル時ハ

其所在ノ政府ノ法律ニ服従セサルコトヲ得ス又外國政府ハ其旅客ニ相當ノ保護ヲ與ヘサルコトヲ得ス

○各人ハ其罪ヲ犯セル地ノ法律ニ属ス可シ

○其人ノ罪ヲ犯セル所ニ於テ其人ヲ罰セシメヨ

○何人モ惡事惡行或ハ懈怠ノ爲ニ非サレハ罰セラル

、コナシ

○理由ノ未タ示サレザル時ニ人ヲ引渡スコトハ不相當

トリトス 按スルニ米國聯邦各部ニ於テ互ニ罪人ヲ引渡ス為ノ格言ナリ

○呼出狀ハ何ノ爲ニ之ヲ出ス可キヤノ申述アル前ニ

之ヲ出ダサバ可シ

○何人モ闕席ノ外ハ糾問ナクシテ裁判申渡ヲ受クル

コナシ

○人ハ何ニテモ裁判申渡書ノ示ス所ニ従フヨリ別ニ

罰セラル、コトヲ得ス

○何人モ他人ノ罪或ハ惡事ノ爲ニ罰セラル、コトナシ

○法律ノ成規ハ寧ロ之ヲ省クモ罪犯及惡事ノ罰セラ

レスシテアラシムルコトナカル可シ

此格言ハ「アラシタ、イェリス」裁判官ノ意見ニ任ト稱スル所ノ者ニノミ適用ス可キ者ナリ蓋シ此種ノ

規則ハ寧ロ之ヲ省クモ罪惡ハ罰セザル可カラス

何者公ケノ安寧ハ最上ノ法律ナレバナリ

○惡事ハ罰セザル可カラス而シテ之ヲ罰セザルハ
罪人ノ爲ニ不斷ノ鼓動ヲナス者ナリ

○赦免ノ容易ナルハ人ヲ罪惡ニ勸ムル者ナリ

○何人モ同一ノ犯罪ノ爲ニ二回罰セラル、一ヲ得ス

○何人モ同一ノ罪及過ニ付キ二回罰セラル、一ヲ得ス

○法律ノ保護ハ人ノ保護ヨリハ強シ

○法律ノ施行ハ人ノ欲ヨリハ更ニ嚴ニシテ且有力ナ

ル者トス

○公ケノ權ハ私ノ權ト混同シテ決定ス可カラズ

○勢力ハ裁判ニ從フ裁判ニ先ツ者ニ非ズ

○勢力ハ裁判ニ從フ可シ之ニ先ツテ得ス

○政事ハ法律ニ適用セラル可シ而シテ法律ハ政事ニ

適用セラル可カラズ

○行政官吏ハ裁判所ノ裁判ヲ検査スル一ヲ得ス

○囚獄ハ其人ヲ看守スル為ニシテ之ヲ罰スル為ニス

ル者ニ非ス

○日曜日ハ法律ニ於テ之ヲ日トセズ 按スルニ裁判所

此日ニ席ヲ開クナシ又裁判申渡ニ由テ金ヲ拂フ

可キノ日ノ日曜ニ値ル時ハ次日ニ之ヲ拂フ此類是

○日曜日ハ裁判ノ日ニ非ス

○婦人ハ民事及公ケノ委任及職務ヨリ除キ去ラル、者トス

○婦人ハ公ケノ職務ニ任セス

○何人モ二箇ノ職務ヲ兼スルヲ得ス 按スルニ一人ニテ立法官ト

行政官トヲ兼テ又行政官ト司法官トヲ兼ヌルノ類尋常ノ兼任ヲ指スニ非ス

○公用ニ役セラレタル人ノ不在ハ自己ノ爲ニモ他人

ノ爲ニモ害アリトスルヲ得ス 按スルニ公用ノ爲ニ不在トナル(假如

ノ爲ニモ害アリトスルヲ得スニ不在トナル(假如

○各人ノ家ハ全ク安全ナル躲身所ナリ

○各自ノ住居ハ其人ノ爲ニハ犯ス可カラザルノ躲身

所トス

○各人ノ家ハ其城ナリ

○自由民ハ裁判官ノ前ニ致シ或ハ之ヲ囚フル爲ニ勢

カヲ以テ其家ヨリ取出スヲ得ス

此格言ハ羅馬人ノ自由ヲ保護スル者ニシテ各人

ノ家ハ其城ナリト曰ヘル者ニ同シ

○天然ノ條理ノ一切ノ人民ノ間ニ設ケレタル所ノ

者ハ各國民ノ法律ト稱ス

○若シ國ニ設ケタル法律ノ缺クル時ハ我輩ハ天然ノ

法律ニ由テ處分ス可シ

○信ハ守ラザル可カラス

○信ハ守ラザル可カラズ萬國公法ノ正直ナルト當ニ

行ハル可シ按スルニ國人ノ間ニハ万国公法ノ精神ノ存

要ススルヲ

○最不正ナル太平ハ最正ナル戦ニ勝レリトス

○戦時ノ法律ハ國ニ於テ嚴ニ之ヲ守ル可シ按スルニ法

律トハ萬國公法中ノ戦時ノ法律ナ

○法律ハ兵間ニ黙ス按スルニ戦時ハ軍律ヲ

○公ケノ敵ヨリ取ル所ノ物ハ直チニ古奪者ノ財産ト

ナル

○兵ニテ得ル所ノ物ハ政府ノ有トス

○無形ノ財産ハ戦ニ由テ得可カラズ按スルニ無形ノ

○權土地使用ノ權發明專賣ノ權板權等ノ如キ者ナ

○俘虜ヲ返ストハ捕ハレタル人ノ其國ヲ決シテ棄テ

ガル者ト假定ス按スルニ此格言ハ萬國公法ニ關係

直チニ己レノ財産ヲ有スルト始

○敵ノ線内ニ未タ引入レラレサル所ノ物ハ縱令ヒ敵

之ヲ有スルモ之カ爲ニ取返ノ假定ヲ要セス何者其

物ノ所有權ハ萬國公法ニ據レハ未タ變セザル者ト

スレバナリ按スルニ一旦敵ノ線内ニ入りタル者ハ

再ヒ之ヲ我有トナスニハ取返ス可キ者

ト假定スルヲ要ス然レモ此格言ノ場合ノ如キハ直ニ我物ヲ取ルカ如シ故ニ此假定ヲ要セス

○海賊ハ人類ノ敵ナリ

○海賊或強盜ノ爲ニ捕ハラレタル人ハ自由ヲ失ハス

按スルニ海賊強盜ノ如キハ抗拒ス可カラザルカハ依然タル自由ノ人民ニシテ囚人トハ見做サレルナリ

○海賊及強盜ノ爲ニ奪ハレタル物ノ所有權ハ變スル

トナシ

○外國使節ニ對シテ暴行ヲナストハ萬國公法ニ反ス

ル者ナリ

○外國使節ハ之ヲ派遣セル國王ノ位置ヲ占ムル者ニ

シテ其占メタル國王ノ代リニ尊敬セラル可シ

○貿易ハ萬國公法ニ於テ共同ナリトス而シテ之ヲ變

シテ專賣若クハ數人ノ私利ノ爲メニス可カラス

○某人ニ貿易ヲ許シ他人ニ之ヲ禁スルハ不公平ナリ

トス

○河川及港ハ公ケノ物トス故ニ捕魚ノ權ハ各人ニ共

同ナル者トス 按スルニ此格言ハ萬國公法ニ干涉スル者ニ非ス

○河岸ノ所用ハ萬國公法ニ據レハ河流ノ所用ノ如ク

共同ナリトス

○廢棄セフレタル者ハ占有者 第一ノ財産トナル 按ス

此格言ハ主トシテ海上ニ用ユル者ナリ海上ニ於テ
廢棄シタル者ハ第一ニ之ヲ見出ス者ノ有トナル

○占有スル者ナキ土地ハ占有者ニ與フ可シ

○地主ナキ地ナシ按スルニ艸味ノ時ニテ前條ノ
格言ヲ適用ス可シ其己ニ國ヲ成ス

○何人モ隨意ニ己レノ本ヲ棄ツルコトヲ得ザルコト明ナ
リ（其人ノ天然ノ忠義ヲ棄ツルコト）

○何人モ其生國ヲ棄ツルコトヲ得ズ又誓フテ其忠義ノ
義務ヲ棄ツルコトヲ得ズ按スルニ此格言ハ英國一千
八百七十年前ノ法律ノ原則

○天然ノ忠信ハ界限ニ由テ阻テラレ抑ヘラレ又縮メ

ラル、コトナシ按スルニ天然ノ忠信ハ其國ニ生レタ
謂フ以テ局所ノ忠信ト別異ス局所ノ忠信ハ甲ノ國
ニ生レタル者シノ國ニ居住スルノ間乙國ノ法律ヲ
遵守ス可キ義務ヲ謂フ故ニ局所ノ忠信ハ至ラザル所
テ及バザル所アリト雖モ天然ノ忠信ハ至ラザル所
ナシ是此格言ノ意ナリ亦一千八百

○忠信ハ恰モ法律ノ本質ヲナス者ナリ此ヲ信用ノ結
合トス

○大逆ノ罪ハ其罰ノ關スル所ニ付テハ一切其他ノ罪
惡ニ超ユ按スルニ大逆ノ罰ハ重ニ其犯人ヲ死ニ處
然レドモ囚ス此其罪惡ノ他ノ罪惡ニ超ユル所以ナリ

○一ツノ叛逆人ハ一切ノ人民ノ滅ビザル爲ニ一人ノ

死ス可キヤウニ罰ラル可シ

○威力及惡事ハ特ニ安寧ニ反對スル者ナリ

○勢力ト惡事トハ平和ノ最大敵ナリ

○腕力ハ法律ノ敵ナリ

立法事務

○天然ノ法律ハ最完全ニシテ變ス可カラザル者ナリ

然レ氏人定法律ノ景況ハ無窮ニ相續スル者ナリ而

シテ永遠ニ繼續スルヲ得可キ者ナシ、

○性法ハ變ス可カラス

○人定ノ法律ハ生レ活キ而シテ死ス

○法律ハ永久ヨリスル者ナリ按スルニ法律ハ始ナリ又終ナキ者トス

○天然ノ權トハ一切ノ人類間ニ同一ノ力ヲ有スル所

ノ權ナリ

○何ニテモ物ノ性質ニ於テ禁セラレタル所ノ者ハ法

律ニ由テ之ヲ確定ス可カラス

○天ハ超過ヲナサス法律モ亦然リ按スルニ宇宙間ノ物皆相次テ整齊ス

超過シテ空位ヲ留メス法律モ亦然リトス

○天地ハ超過シテ何物ヲモ作ラサルガ如ク法律モ亦

超過ヲナサス

○天ハ閑隙ヲナサス法律ハ何モ空虚ナル事ヲナサス

○天ハ十分スルヲ望ム而シテ法律モ亦然リ

○裁判官ノ見解ニ委スルヲ成ルタケ少キハ法律ノ最良ナル規模ナリ

○裁判官ニ最少ノ見解ヲ用ヒシムル所ノ法律ハ其最良ナル者トス而シテ此事ハ法律ノ切實ナルヲニ由テ生スル所ノ利益ナリ

○公法私法ハ天ノ命ニ由テ輯ノタル者ナリ一方ニハ各國民ノ法トス他ノ一方ニハ各國人ノ法トス而シテ民法ニ於テ^直正ト名ツケ英國ノ法ニ於テ^直正ナリト曰フ可キ所ノ者ナリ按スルニ此公法ハ即今ノ所謂萬國公法ニシテ私法

ハ即一國ノ法而シテ民法トハ羅馬ノ民法ナリ

○一切ノ法律ハ或ハ人民ノ承諾ヨリ生シ或ハ必要ニ

由テ之ヲ設ケ又或ハ慣習ニ由テ之ヲ確定ス按スル

ノ法律即英語ノコウハ羅甸語ノ「イ」ト曰フ語ニシテ

テ他ノ處ニテハ皆之ヲ權利ト譯マ「ル」ト曰フ語ニシ

テ之ヲ權利ト譯ス曰ク一切ノ權利ハ承諾ニ似タリ

要及慣習ニ成ルト此譯更ニ善ナルニ似タリ

○英國ノ法律ハ三様ナリ常法慣習及議院ノ布告按ス
英國ノ法律ハ之ヲ大分シテ不成文及成文ハ二箇ト
ス此二箇ノ小分ニ至テハ法律家ノ見ル所ニ由テ同
シカラス爰ニ所謂常法トハ即不成文ノ法律ニシテ英
國全行ハル一一般ノ慣習ナリ本布告ノ所謂慣習
トハ其地方ニ限ル者ヲ指ス議院ノ布告トハ即
議院ノ議ヲ經テ成文法律トナル者原語ノ「ス」ト
ナリ是

○民法ハ人民ノ己レノ爲ニ設クル所ノ者ナリ按スル
ノ根原ハ慣習風俗ニシテ其人民ノ間ニ行ハル、始
久クシテ且廣キ者漸ク法律ノ形状ヲナスニ至ル、始
ヨリ立法官ニテ議定
造作スル者ニ非ス

○經驗ハ種々ノ所爲ニ由テ法律ヲ立ツ

○種々ノ所爲ニ由テ經驗スルハ法律トナル、經驗ハ

諸事ノ君主ナリ按スルニ經驗ノ諸事ニ於ケルカ如シ主ト
シテ之ヲ支配
スルノ權アリ

○使用ハ物ノ師ナリ經驗ハ物ノ女師ナリ按スルニ使

由テ物ノ景況性質ヲ知ルハ得猶生徒ノ教師ニ由
テ萬般ノ事ヲ知ルガ如シト女師ト分ツハ羅甸
語ノ男性ニシテ經驗ノ原語ハ女性ナリ

○法律ハ慣習ノ承認スル所ノ者ヲ施行ス

○神ノ法律ト土地ノ法律トハ全ク一ナリ而シテ兩カ

ラ土地ノ公益ヲ保チ且之ヲ進ム按スルニ英國土地
合同スル者ナリ故ニ公益ノ爲ニ
兩カラ欠ク可カラザル者トス

○法律ハ條理ノ完備スルヲナリ其條理ハ何事ニテモ
有用及必要ナルヲ命シ及之ニ反スルヲ禁スル
所ノ者ナリ

○法律ハ何事ニテモ正キ者ヲ命シ而シテ之ニ反スル
者ヲ禁スル神聖ノ決定ナリ

○正ト直トハ法律中ノ法律ナリ

○法律ハ自ラ其正理ニ據テ支配セラレ、ナリ好ム
○法律ハ正理ヲ好ム又完備ヲ望ム法律ハ正理ノ規則

○英國ノ法律ハ不理ナルヲ許サズ

○英國ノ法律ハ仁慈ノ法律ナリ

○法律ハ更ニ強キ者ノ無限ノ威力ヲ用キシメザル爲ニ作レル者ナリ

○法律ハ人ノ便益ノ爲ニ設ケタル者ナリ按スルニコノ説ニ曰ク古格言ニ謂フ法律ニ由テ我輩ハ生キ動キ且安居スト今人ハ其未タ生レザルニ方ツテモ法律ノ爲ニ性命ト財産トヲ保護セラレ其生レ且其シテハ其性命ト財産トヲ終身間保護セラレ且其一

切ノ所為ヲ保固セラレ其死スルニ至テハ法律ヲ以テ其遺物ノ適當ナル分派ヲ定ムト法律ノ便益此ノ如キ者アリ

○何レノ法律モ一切ノ人ニ利益アルヤウニ作ルヲ得ス然レモ若シ其多數ノ人ニ利益アル時ハ其法律ハ有用ナリトス

○法律ハ自ラ人ヲ害セス

○法律ハ決シテ孰ニモ損害ヲナサス或ハ其人ニ惡事ヲナサス

○法律ハ何人ニモ惡事ヲナスヲナシ

○新ナル法律ハ將來ノ者ノ爲ニ設ク可クシテ過去ノ

者ノ爲ニ設ケス

○各箇ノ新ナル成文法ハ將來ノ爲ニ定ム可シ既往ノ爲ニ定ム可カラス

○法律ハ其前ヲ視ル後ヲ視ズ按スルニ「ベ」コン氏曰ク法律ニ於テハ「ヤ」ニ「ハ」ト「古」羅馬ノ神ノ名ニシテ「ハ」只將來ノミヲ視ル者ナリ故ニ云フ佛國民法ノ前ハ只將來ノミヲ視ル者ナリ故ニ云フ佛國民法ノ前如篇第二條ニ言フ所ノ法律ハ既往ニ及ホス可カラガルト同シ而シテ兩カラ此格言ト同シキ者トス

○法律ハ將來ノ爲ニ設ク裁判官ハ既往ニ向テ設ク

○何人モ他人ノ損害トナルヤウニ其目的ヲ變スルヲ得ス按スルニ此格言ハ專ラ立法者ノ爲ニスル所ヲ得スノ者ナリ渾テ變改ヲナスハ己ニ成立ツタ

ル權利ニ抵觸スルヲナカル可シ

○罪惡ノ輕重ヲ定ムルハ決シテ其後ニ起リタルト

ニ由テ増スヲナシ按スルニ後ニ起リタルトハ新ナル成文法ノ更ニ嚴ナル者ヲ指ス

○既往ノ罪犯ノ性質ハ決シテ後ニ起リタル所ノ者ニ

由テ加重セラル、ヲナシ

○賢明ノ人ハ己ニナシタル事ヲ救正スル爲ニ罰ヒス

然レ氏將來ノ惡事ヲ防ク爲ニ罰ス

○法律ハ之ヲ布告セサレハ之ニ從フ可キ義務ナシ

○法律ハ衆人ニ一箇ノ口ヲ以テ言フ

○法律ハ法律ノ意見者ヲ免サス按スルモ之ヲ守ラサル可カ
ラズ之ヲ創意スルノ立法者アリト
雖亦之ヲ守ルノ義務アリトス

○何ニテモ人民ノ最後ニ義定スル所ノ者ハ之ヲ設立
セル法律トトラシメヨ按スルニ古羅馬ノ法ニ據レバ
氏曰ク古羅馬ノ法ニ據レバ
不成文法ト成文法ト相抵觸スル時ハ成文法ヲ勝レ
リトス又成文法ト中古法ト新法ト相抵觸スル時ハ
新法ヲ勝レリトス蓋此格言
ハ此理ニ本ヅケル者ナリ

○前ノ成文法律ハ後ノ成文法律ニ位ヲ讓ル可シ
○前ノ成文法ハ後ノ成文法ニ讓ルコトハ新創ノ事ニ非
ス按スルニ新創ノ事ニ非ストハ
従前ノ慣習ナリト謂フニ同ジ
○後出ノ法律ハ従前ノ抵觸セル者ヲ廢ス

○一箇ノ特別ナル成文法ハ其他ノ特別ナル成文法ヲ

減スルコトナシ

○法律ハ其始メ之ヲ作レルト同一ノ方法ニテ廢セラ
ル可シ

○英國ノ法律ハ議院ニ非スシテ之ヲ變スルコトヲ得ス
○人造法律或ハ成文法律ノ永遠ノ者ニ非ザルコトハ永
遠ノ法律ナリ而シテ法律中ノ箇條ニ法律ヲ廢スル
コトノ力ヲ拒ク所ノ者ハ始ヨリ無効ナリトス

○法律ノ廢止ヲ妨クル所ノ法律ノ箇條ハ始ヨリ効ナ
キ者トス

○上等ノ勢力ハ解釋スルヲ得然レ氏己レヲ束縛ス

ルヲナシ按スルニ議院ノ勢力ハ上等ノ者ナルヲ以テ法律ヲ廢シ又之ヲ變スルヲ得ルノ自由ヲ有ス法律ノ為ニ束縛セラハ、一ナシ若束縛セラレテ自由ヲ失フ時ハ上等ノ勢力トスルヲ得ス

○法律ハ時アツテ眠ル然レ氏決シテ死スルヲナシ按ルニ法律ハ依然存在スド雖氏其適用ス可キ事アルニ非サレハ其用ヲナサス然レ氏之ヲ指シテ其法律ヲ得ス

○法律ヲ作り又之ヲ輟ムルノ風習ハ最危キ者ナリ

○法律ヲ定メ又之ヲ再定スルノ風習ハ最危トス

○法律ノ曖昧不定ナル所ニ於テハ之ヲ苦難ノ景況ニ在ル事トス按スルニゴロ氏ノ「インスチュート」ノ序ニ曰ク確實ナル「ハ安心ノ母ナリ故ニ

法律ハ確實ヲ主トス亦此意ナリ

○法律ハ其最多ク起ル所ノ場合ニ用キラル、者ナリ

○立法者ハ何ニテモ一二回ノミ起ル所ノ者ニ付テ問

ハス

○只一二回ノ外決シテ起ラサル所ノ事ハ立法者之ヲ

問ハス

○寺院ニ屬スル法律ハ各箇ノ境域ノ内ニ限ル者トス

按スルニ寺院ノ法律ハ尋常ノ民法ト混同ス可カラス

○過嚴ニ命令セザル人ニハ更ニ善ク從フ者ナリ

○更ニ寛和ニ命スル者人ノ之ニ從フ一更ニ善シ

○多許ノ無用ナル事ヲ以テ人ヲ抑フルヨリモ少許ノ有用ナル事ヲ發スルコトハ更ニ多ク有用ナル者トス

○法律ハ無用ノ事ヲ命セス何者無用ノ勞ハ不理ナレハナリ

○立法者ノ音聲トハ法律ヲ事實ニ著ケテ文字ニ著ケサル爲ニ生活セル音聲ナリ

○立法者ノ發言ハ自ラ生活ノ音聲ニ同シ我輩ハ法律ヲ事物上ニ附ス可シ文字上ニ附セス

○裁判官ノ職務ハ之ヲ鬻ク可カラス 按スルニ古昔ハ官ヲ鬻クノ風盛

ナリシ故ニ此格言アリ

○裁判官ノ職務ハ其空位トナル前ニ之ヲ授クルコトヲ得ス

○上等ノ權力現在スル時ハ下等ノ權力ハ止ム

○均一ナル者ハ均一ナル者ノ上ニ威ヲ加フルコトヲ得ス

假如ハ同一ナル裁判所ノ二人ノ裁判官ノ一人ハ其他ノ一人ヲ其不規則ナルニ由テ之ヲ拘囚スルコトヲ得ス

○若シ各自ニ其裁判權ヲ守ラザル時ハ事物ノ順序ヲ

亂ル

○裁判官ノ裁判權ヲ大ニスルヲ即チ保護ノ權力ヲ大ニスルヲハ裁判官ノ職分ナリ

○裁判權ヲ盡スルハ良裁判官ノ職分ナリ

○裁判官ノ己レノ職務ニ属セザル所爲ハ効ナキ者トス

○不相當ナル裁判官ヨリナシタル裁判ハ緊要ノ者ニ

非ス按スルニ不相當ナル裁判官トハ即チ裁判權ノ管轄外ニ在ル裁判官ヲ謂フ此ノ如キ裁判官ノナシタル裁判ハ執行スルヲ要セス

○裁判官ニ非サル人ノ裁判所爲ハ無効ノ者トス然レ

行政上ノ所爲ハ何人ヨリ之ヲナシタルニ拘ハラ

○ス之ヲ有効ノ者トナラシメヨ

○裁判官ニ非サル所ノ人ニ由テ言渡シタル裁判申渡書ハ何人ニモ害セサル可シ

○其領分ノ外ニ裁判權ヲ行フ所ノ者ハ之ヲ無罰ナリトシテ之ニ服従スルヲ得ス

○裁判權限ヲ越ユル裁判官ニ服従スルヲ要セス

○爰ニ決定ノ權力アラザレハ爰ニ従フ可キノ必要アラ

○權ヲ有セザル人ニ従ハザルヲハ安全ナリトス

○裁判權ヲ有スル所ノ人ニハ並ニ裁判權ヲ行フニ必要ナル諸事ヲ許サレタル者ト看做ス可シ按スルニ呼出スノ類是ナリ

○裁判官ノ命令ニ由テ某ノ事ヲナス所ノ人ハ不適當ノ理由ヨリ之ヲ行フタリト察スルコトヲ得ス何者其命令ニ從フコトノ必要ナレバナリ

○何人モ罰ノ申渡ヲナスコトヲ得ル者ニシテ之ヲ放免スルコトヲ得サル者ナシ

○詞訟ノ職務ナリ而シテ詞訟ヲ止ムルコトハ良裁判官ノ職務ナリ

幸福ニ關ス

○詞訟ノ原因ヲ去ルコトハ良裁判官ノ職務ナリ

○裁判官ノ前ニ出テタル訴訟者ノ爲ニ裁判ヲ施行スルコトハ各裁判官ノ職務ナリ

○延引ナク執行セシムルコトヲ裁判ニ付テ命スルコトハ良裁判官ノ職務ナリ

○毎日ノ業ヲ其日ノ中ニ終フルコトハ裁判官ノ職務ナリ按スルニ其日ノ事ヲ次日ニ延ハスコトヲ得サルヲ謂フ

○自己ノ見解ニ委スルコトノ成ルタケ少キ所ノ人ハ最良ナル裁判官ナリ

○判断トハ法律ニ由テ何レカ正シキヤ否ヲ決スルナリ

○何人モ法律ヨリ賢明ナルヲ要セス按スルニ此故

○其人ニ委任セラレタルノミ其人ニ許サレタル者ナリト思フハ賢明ナル裁判官ノ職務ナリ

○良裁判官ハ其己レノ隨意ノ好ニ由リ又ハ其私欲ノ命令ニ由テ何事ヲモナサザル可シ彼ハ只法律ト正理ノミニ従フテ裁判申渡ヲナス可シ

○最大ナル権力ニ於テハ最少ノ自由ナリ按スルニ裁判官ノ如キ

ハ最大ノ権力ヲ有スル者ナリ然レ其権力ヲ妄用セザル爲ニ嚴ナル制限アリテ其人自己ノ意見ニ任スルヲ得ス故ニ最少ノ自由アリトス

○良裁判官ハ道理ト正直トニ由テ決定ス而シテ情理裁判ヲ嚴酷ナル法律ノ上ニ位ス

○裁判官ハ常ニ正理ヲ其目前ニ在ラシム可シ

○裁判官ハ告白ト證據トニ據テ決定ス可シ

○裁判官ハ双方ノ申述及證據ニ従フテ決定ス可シ

○法律ヲ宣告シテ法律ヲ設立セザルハ裁判官ノ職務ナリ

○法律ヲ宣告ス法律ヲ作ラス

○裁判官ハ發言スル法律ナリ

○裁判ヲナス人ノ爲ニ重ス可キ事ハ何事モ其解説ヲナスニ其事ノ自ラ要スル所ヨリモ更ニ寛ナル可カラス又更ニ嚴ナル可カラザルヲナリ何者嚴ト寛トノ名譽ハ之ヲ求ムルヲ得可カラサレバナナリ

○事實ハ陪審ニ於テ必需ノ者トス正理及判決ハ裁判官ニ於テ必需ノ者トス

○裁判官ハ事實ノ問ニ答ヘス陪審ハ法律ノ問ニ答ヘス

○裁判官ハ法律ノ問ニ答フ而シテ陪審ハ否ラス

○裁判官ノ目的ノ正意ニ合シ且廉直ナルトハ疑ヲ容

○レス然レモ其決定ハ法律ト事實トノ錯誤ニ拘ハラズ若シ錯誤アレハ之ヲ争フヲ得

○爰ニ著明ナル不正アラザル所ニ於テ裁判官ハ正直ナル者ト看做シ而シテ其裁判ヲ直實ノ者ト看做ス可シ

○裁判官ハ其申渡書ノ道理ヲ説明スルトノ義務ナシ

トス 按スルニ裁判申渡書ニハ必理由ヲ付ス可キ者由テ之ヲ更ニ説明スルノ責ニ任セス

○人ノ其己レノ訴訟ニ付テ裁判官タルトハ格別ノ不正ナル者トス

○人ノ己レノ訴訟ニ於テ裁判官タルトハ不正ナリトス

○何人モ其己レノ訴訟ニ付テ裁判官タルトヲ得ス

○何人モ其自己ノ訴訟ノ裁判官タルトヲ得ス

○何人モ其自己ノ訴訟ニ於テ裁判官トナルトナシ

○何人モ自己ニ向テ訴フルトヲ得ス

原註ニ曰ク此故ニ何人モ其自己ノ場合ニ於テ裁判官タルトヲ得ス

○何人モ其自己ノ裁判官トナリ又ハ己レノ親族ノ關係アル所ノ場合ニ於テ裁判ヲ行フトヲ得ス

○人ハ其自己ノ訴訟ニ就テ裁判官トナルトナシ何者其人ハ裁判官ト原告人トヲ兼ヌルト能ハサレバナリ

○何人モ同時ニ裁判官及訴訟人トナルトヲ得ス

○裁判官ハ人ノ己レニ對シテナセル惡事ヲ罰スルトヲ得ス

○裁判官ハ其自己ノ訴訟ニ於テ證人トナルトヲ得ス

○有罪ヲ免ス所ノ人ハ無罪ヲ罰ス

○有罪ヲ免ス所ノ人ハ無罪ヲ罰ス

○若シ裁判官ノ罪惡ヲ放免スル時ハ罰ス可キ者トス

○神ニ向フテ責ニ任スルハ裁判官ノ爲ニハ十分ノ

罰ナリトス按スルニ裁判官ハ其不能ナルカ爲ニ罰

アリ此以テ十分ノ罰ナリトス可シ

○裁判官ハ二種ノ鹽ヲ有ス可シ智力ノ鹽アリテ之ヲ

無味トナラシメス良心ノ鹽アリテ之ヲシテ鬼魅ノ

如クナラシメス按スルニ鹽ハ百味ヲ調和シ肉菜ヲ

物トス借テ以テ裁判官ノ智ト廉トフ欠ク可カラザルヲ形容ス

○裁判官ノ無知ハ無罪人ノ不幸ナリ

○若シ汝裁判スル時ハ先ツ之ヲ了解セヨ

○法學者トナラント欲ル所ノ者ハ學テ止マサル可シ

且各人ヲ教ヘテ倦マザル可シ

○文字ニ拘泥スルハ裁判官ノ爲ニ價直ナキ者トス

○事ノ生スル時及其事ヲ并セテ問窮スルハ裁判官

ノ職務ナリ時ヲ并セテ問窮スルハ由リテ切實ナ

リトス按スルニ双方ノ申述ヲ聽ニ方ツテ其事實ノ

ニ双方申述スル所ノ事ノ曲直ヲ判スルニ於テハ其情得テ

窮シ以テ双方ノ曲直ヲ判スルニ於テハ其情得テ

逃ナルハ所ナシ

○若シ其事ノ公クニ裁判官ニ知ラレサル時ハ裁判官

ノ知ル所ノ者ハ渾テ事實ニ關スルヲナシ

○裁判官ハ其決定ニ於テ其取除ケタルノ證アラザル時ハ其規則ニ從フ可シ按スルニ平常ノ場合ヨリ特
別ニ取除ク可キ場合タルノ
證アルニ非サレハ必ス之ヲ平常ノ場
合ニ適應スル者トシテ其規則ヲ用ユ

○仲裁人ハ裁判官ナリ按スルニ仲裁ヲ受クル者ハ其
ノ者ハ裁判官ト雖氏之ヲ變スルヲ得
ス故ニ裁判官ノ裁判ニ同キ權力ヲ有ス

裁判管理

其一 總則

○裁判ハ賣買ス可カラザル者トス何者凡事賣買ス可
キ裁判ヨリ更ニ惡ム可キナケレハナリ裁判ハ完全
ナラサル可カラザル者トス何者裁判ハ缺陷アル可

カラサレハナリ而シテ裁判ハ速カナラザル可カラ
サル者トス何者延滞ハ拒絕ノ一種ナレハナリ

○法律ノ賢明ナルヲハ金ヲ以テ之カ價値ヲ定ムル
ヲ得ス按スルニ此故ニ裁判ハ金
ヲ以テ賣買ス可カラス

○法律ハ裁判ヲ施行スルヲ於テ必之ヲ遂ク可シ

○法律ハ正理ヲ示スヲ於テ必ス之ヲ遂ク

○裁判所ハ裁判ヲ示スヲ於テ不足ナカル可シ按ス
ルニ
裁判所ハ常ニ告白セ
ル訴訟ヲ受理ス可シ

○十分ニシテ迅速ナル裁判ヲ双方ニ與ヘヨ

○何人モ救助ヲ得ルヲナクシテ上等裁判所ヨリ離ル

可カラス 按スルニ上等裁判所ハ已ニ告白セル訴訟ヲ受理セザル可カラス

○一切ノ事ニ於テ固リ公平ノ理ヲ察ス可シ裁判管理ニ關スルコトニ於テハ殊ニ然リトス

○裁判ハ父ヲ知ラス又母ヲ知ラス裁判ハ只眞實ノミヲ視ル

○法律ノ假定ニ於テ裁判ハ傾注スルノ念ニ反シテ之ヲナス可シ 按スルニ裁判官ノ法律ヲ擬定スルニ方リト自信スルノ場合ニ於テ此箇條ヲ援引ス可キ者ナ偏倚スル所ノ念ニ克テ之ヲ行フ可シ
○裁判ハ恰モ命令ノ如シ即チ法律ノ言フ所ノ者ニシテ之ヲ眞實ノ者ト認ム可シ

○裁判ハ恰モ法律ノ言フ所ノ如シ

○裁判ハ常ニ眞實ノ者トシテ之ヲ認ム可シ

○裁判申渡ノ正シキコトハ假定セラル可シ

○事ノ裁判セラレタル者ハ取テ以テ實トナサザル可カラス

○假定ハ常ニ裁判申渡ヲ保護ス

○何ニテモ裁判所ニ於テナシタル所ノ者ハ適當ニ之ヲナシタル者ト假定ス可シ

○國王ノ裁判所ニ於ケル裁判ハ消滅ス可カラザル者ニシテ其錯誤タルニ由リ或ハ陪審ノ述フル所ノ不

實ナルニ由リ之ヲ取消トナシタルニ至ルマデ其力ヲ保ツ者トス

○決定裁判官ノ理由ヲ決定スノ違背ハ法律ノ錯誤ナリ

○法律ノ錯誤ハ害アル者トス

○情理裁判ハ法律ニ從フ按スルニ情理裁判ハ必シモ自由ナル者ナリト雖氏始ヨ

○法律ハ情理裁判ノ成立ソ所ニ於テ假定ヲナス按ス

○法律ノ假定ヲナス所ハ情理裁判ノ在ル可キ所ニ在リ情理裁判ニ反シテ法律ノ假定ヲナスハ通常情理

○法律ハ時トシテ情理裁判ニ從フ按スルニ法律ニ從フ

者ナリト然ルニ時トシテ法律ノ情理裁判ニ從フ
便アリ蓋舊法ニ據レハ其事ヲ裁斷スルニ方ツテ不
レハ尋常裁判所ハ其成例ニ據テ之ヲ裁斷ス此ノ如
キノ場合即是ナリ

○爰ニ均一ナル正理アル時ハ法律ヲ勝レリトス

○情理裁判ハ正理ヲナスコトヲ好ム而シテ又之ヲ半途ニナスコトヲ好マス按スルニ正理ヲ十分

○法律ノ所爲ハ何人ヲモ害セザル可シ

○法律ノ所爲ハ人ニ惡事ヲナサス

○一ツノ訴訟ニ於テ裁判セラレタル事ハ其事ニ關係ナキ所ノ人ヲ害セス

○巴力門ノ裁判所ハ其特別ナル法律ニ由テ管理ス

○裁判所ノ例ハ裁判所ノ法律トス

○汝ハ規則ニ由ルヨリモ更ニ容易ニ實際ニ由テ許多

ノ事ヲ知ル可シ 按スルニ裁判官ノ如キハ只規則ヲ

實際ヲ經テ始テ了解ス可キヲ多シトス

○通常ノ慣習ヨリ離ル可カラス

○訴訟ヲ出ス所ノ場所ノ慣習ハ守ラザル可カラス

○其所在ノ慣習ハ守ル可キ者ナリ

○先例ニ由リ而シテ設立セル所ノ事ヲ亂サミル可シ

○已ニ定マリタル所ノ事ヲ亂ス可カラス

○之ヲ前ニナシタルカ如クナセ改革ヲ輕卒ニナス

○勿レ

○普通ニ遵守スル者ヨリ離ル可カラス 按スルニ普通ニ遵守スル者

トハ即慣習ナリ

○何事モ妄ニ變ス可カラス

○各箇ノ改革ハ其改革ノ利ニ由テ利スルヲヨリモ其

新ナルヲニ由テ更ニ騷擾スル者ナリ

○新ナルヲハ其事ノ新ナルヲニ由テ騷擾ヲ生スルカ

如キ文ケノ有用ニ由テ利スルヲナシ

○旅人ヲ迷ハシムル所ノ者ハ新ナル路ニシテ古キ路

ニ非ス

○新ニシテ且慣ハサル諸事ヲ引キ入ル、トスハ殆キ者

○古キ道ハ安全ナル道ナリ

○踏マレタル道ハ最安全ナリ

○訴答ノ順序ヲ保ツ時ハ法律ハ保タル可シ

○無學ナル施術者謂トス訟師ヲノ多數ハ裁判所ヲ毀ツ按ニ

訟師ノ無學ナル者多キハ裁判所ノ害トナル者ナリ

○訴訟ノ種類ノ別ハ各自ニ之ヲ守ル可シ

○各箇ノ訴訟ハ各其本來ノ方向ヲ以テ進ム

○我輩ハ決シテ渾テ尋常ナル事ノ効ナキ時ニ至ルマ

テ渾テ非常ナル事ノ事ヲ用ユ可カラズ

○若シ汝ノ尋常ノ救助ニ由テ助ケラル、トヲ得ル時

ハ新ナル救助ハ之ヲ試ム可カラス

○我輩ハ何ニテモ通常トスル所ノ者ノ無効ナル時何

ニテモ非常ナリトスル所ノ者ノ助ヲ借ラサル可カ

ラス

○若シ尋常ノ救助ノ用ヲナサザルニ至ル時ハ非常ナ

ル救助ハ用ヒラレザル可カラズ

○條理ハ法律ノ不備ナル時ニ方ツテ引用セララル、ト

ヲ得然レド其條理ハ信實ニシテ合法ノ條理ナル可ク且表面ノミノ條理ニ非サル可シ

○予想フニ善人ノ例ニ由テ保證セザル所ノ者ハ殆シ按スルニ古人ノ之ヲ用ヒタル例ノ據ル可キ者ニ非サレハ殆シ

○必要ノ爲ニ許サレタル所ノ諸事ハ先例トシテ之ヲ援引スルヲ得ス

○何ニテモ法律ノ條理ニ反シテ許サレタル所ノ者ハ先例トシテ之ヲ援引スルヲ得ス

○法律ノ條理ニ反シテ用キサル諸事ハ之ヲ前例トシテ援引スルヲ得ス

○不成文法ヲ減スル諸事ハ先例トシテ之ヲ援引スルヲ得ス

○先例ハ其公平ナル者タケハ法律ノ効ヲ有ス

○曖昧ナル先例ハ少許ノ効ナシ又ハ全ク効ナシトス

○我輩ハ法律ニ由テ裁判ス可シ例ニ由テ裁判ス可カラス按スルニ各場合ニ於テ其事實ト意思ヲ窮メ始テ法律ニ據テ之ヲ斷ス可シ概シテ舊例ニ據テ之ヲ斷ス可カラス蓋シ只例ニ據ル時ハ其事實ト意思ヲ究メスシテ引用スル所ノ法律ノ精神ヲ失ヘバ

○何レノ例モ一切ノ目的ノ爲ニ同一ナル者ナシ

○縦令ト其一事ノミニテハ惡トナシ難キ者モ若シ其

事ノ惡キ例ヲ示ス時ハ其事ハナス可カラザル者ナ
リトス

○若シ某ノ事ノ其事ノミニテハ惡トス可カラズ然レ
モ或ハ其惡事ノ例トナル可キ時ハ其事ハナス可カ
ラサル者ナリトス

○各箇ノ取除ケノ事ハ注意セサル時ハ原則ノ位置ヲ
占ムルトニ至ル可シ按スルニ非常ノ件ニレテ原則
ヨリ取除ケトナルトハ從フベ
キ者ニ非ズ然ルニ裁判官不注意ニシテ之ヲ先例ト
シテ用ユルト數バスレハ取除ケノ事却テ原則ノ位
置ヲ占ムルニ
至ルトアリ

○合法ノ同一ナルトハ互ニ相比較スル時種々ノ場
合ヲ管理スル所ノ同一ノ條理ナリ何者ハ何ニテモ
一箇ノ同一ナル場合ニ於テ有効ナル者ハ其他ノ場
合ニ於テモ亦有効ナル可キヲ以テナリ不同一ノ事
條理モ亦不
同一ナリ

○便益ニ關スル法律ハ同一ノ場合ニ於テ救助ヲ與フ
按ズルニ詞訟ノ一方便益ニ關係スル法律ハ當ニ其
事ニ救助ヲ與フルノミナラス且同一ノ場合ニ於テ
救之ヲ援引シテ
救助ヲ得可シ

○爰ニ同一ノ條理アレハ爰ニ同一ノ法律アリ
○同一ノ事ニ付テハ同一ノ裁判ナリ
○同一ノ事ヨリ同一ノ事ニ至ルマデハ同一ノ規則ニ

テ進ム可シ

○同一ノ場合ニ於テハ其救助ハ同一ナル可シ

○爰ニ直接ノ法律ノアラザル所ニ於テ裁判官ノ裁判ハ己レノ意見ニ任ス可シ或ハ同一ノ場合ニ準據ス可シ

○何ノ權利ヲナスカ何ノ損害ヲナスカヲ説明スルハ法律ノ事務ナリ

○推究スルコトハ何事ノ元來合法ナルヤ否ヲ知ル爲ノ方法ナリ

○法律ハ事實ヨリ生ス 按ズルニ陪審ハ事實ヲ定ムル者ナルヲ

○善良真正ノ裁判ノ各箇ノ確定ハ善良真正ノ豫定及

陪審ノ決定ヨリ生ス 按ズルニ確定豫定ノ原語ハ論

法律ハ瑣末ノ事ニ拘ハルコトナシ 按ズルニ此道理ニ

○一箇ノ所爲ニ付テハ此小ナル景況ハ法律ヲ變スル

○詞訟ノ主義ヨリ生スル所ノ解説ハ法律ニ於テ最適

當及最有力ノ者ナリトス

○事物ノ本原ハ問究ス可キ者トス

○法律ハ諸事ヲ正理ト中和トヲ以テ定ム

○裁判申渡書ハ法律ヲナス而シテ解説ハ法律ノカヲ

有ス

○新ナル裁判ハ新ナル法律ヲ作ラス而シテ古キ法律

ヲ定ム

○更ニ後ニ在ル決定ハ法律ニ於テ更ニ強キ者トス

ルニ此格言ハ主トシテ舊例ヲ援引スル時ニ用ユ一事ニ付テ種々ノ舊例アル時ハ其後ニ在ル即チ新キ例ハ其前ニ在ル例ヨリモ更ニ有力ノ者ナリトス

○信用ハ更ニ後ニ在ル決定ニ付ス可キ者トス

○裁判セラレタル事ハ白キ者ヲ黒キ者トナシ黒キ者

ヲ白キ者トシ曲ナル者ヲ直トシ直ナル者ヲ曲トス

按スルニ人々ノ思想ニ由テ是非曲直トスル者ハ裁判ニ由テ之ヲ反スルヲ得

○裁判申渡ノ執行ス可キ爲ニ付托セララル、ニ非サレ

ハ裁判申渡ヲナスノミニテハ十分トセス

○裁判執行ハ何ニテモ一切ノ他ノ諸手續ニ先ツ者ト

ス

○裁判執行ハ裁判ニ従フテ法律ノ執行ナリ

モ裁判申渡ニ記載セルカ如クナル可キ者ニシテハ恰人為ニ由テ絲毫モ加損ヲナスコトヲ得可カラズ

○執行ハ法律ノ主意及結果ナリ

○詞訟ノ手續ハ重キ困苦ナリ法律ノ執行ハ其事ヲ幸

トナス

○法律ノ効ノ執行ニ成ル

○裁判ハ空像ノ者タルヲ得ス其適當ナル効ヲ有ス

可シ

○適用スルルハ規則ノ性命ナリ

○急遽ナル商議ハ成リ難シ

○裁判ヲ急速ニスルルハ不幸ノ繼母ナリ按スルニ不幸ノ由テ生

スル所故ニ惡キ母ノ如シ

○裁判ハ屢バ熟思スルルニ由テ成熟ス決シテ急キタ

ル手續ニ由テ成熟スルルナシ

○人類ノ死ニ關係スルルアル時ハ何レノ延引モ長シ

トセス

○一人ノ死生ニ關係セル問題アル時ハ其事實ヲ尋問

スルルヲ許ス為ニハ何レノ延引モ長シトセス

○各箇ノ裁判權ハ其境界ヲ有ス

○罪惡ハ其人ヲ將チ去ル之ヲ詳ニセハ罪惡ヲ施行ス

ルルハ其施行セル場所ノ裁判所ニ罪人身上ノ裁判

權ヲ與フ按スルニ此ノ如クスルハ罪狀ノ證ヲ得易キヲ以テナリ

○首タル者ノ裁判權ヲ有スル者ハ並ニ從タル者ノ裁判權ヲ有ス

○裁判官ノ事實ノ問ニ答ヘサルト同一ノ方法ニ於テ陪審ハ法律ノ問ニ答ヘズ

○裁判官ハ法律ニ關係セルノ責ニ任シ陪審ハ事實ニ關係セルノ責ニ任ス

○法律ノ事ハ陪審ノ口ニ出タス可カラス

○陪審ハ事實ノ裁判官ナリ

○何人モ記録ノ裁判所ニ對シテ陪審ニ由テ證スルヲ得ス之ヲ詳ニセハ記録上ノ結果ハ陪審ニ由テ審糺

スルヲ得ス按スルニ訴訟ノ最終ノ決定全ク裁判所ト記録ナキ裁判所アリ

録ナキ者ニシテ其以上ノ等級ニ在ル裁判所ハ記録アリニ本ツク時其事ハ陪審ニ任セラレ得ス

○陪審トナル者ノ隣近ノ者十分ニ財産ヲ有スル者及惡名ナキ者タル可シ

○糾問ハ常ニ陪審ノ最能ク知ル所ノ場所ニ於テス可シ

○陪審ハ力役及費用ニ由テ困シメラル、トナシ按スルニ陪審ハ常ニ相當ノ償ヲ得

○罪惡ヲ正ク防ク所ノ裁判ハ嚴ニ其罪惡ヲ罰スル所ノ裁判ヨリモ善キ者トス

○法律ノ頂上ハ不正ノ頂上ナリ

○法律ニ於テノ過度ハ非難セラル可シ何事ニ於テモ

過度ナルトハ常法ニ由テ非難セラル可シ按スルニ

界ヲ超過スルハ法律ノ取ラザル所ナリ法律ト雖氏其超過セル者ハ亦取ラザル所ナリ

○罰ハ之ヲ重クスルヨリモ寧口之ヲ輕クス可シ

○罰ハ制限セラル可シ

○罰スルヨリモ放ツトニ過チ嚴酷ノ方ヨリモ仁惠ノ方ニ過ノトハ更ニ安全ナリトス

○仁惠ノ方ニ過ツトハ更ニ安全ナリトス

○疑ニ於テハ更ニ寛ナルノ方法ニ従フ

○疑ニ於テハ更ニ安全ナル方法ヲ用フ

○疑フ可キ場合ニ於テハ更ニ適當ナル者ヲ取ル

○刑ヲ逃ルトハ犯罪ノ繼續スル餌ヲ具フル者ナリ

○其罰ヲシテ其罪ニ比例セシメヨ

○罰ヲ科スルトハ罪惡ノ増加ニ比例ス可シ按スルニ

數増加スル時ハ其嘗テ設ケタル罰法ノ以テ懲戒スルニ足ラザルヲ見ル可シ故ニ其罰モ亦従フテ増加セザルヲ得ス

○罪犯ノ増加スル時ハ罰ノ科斷ヲシテ増加セシメヨ

- 罰ハ罪ノ増加スルニ從フテ増加ス
- 惡事ノ増加セル時ハ其罰モ亦増加セラル可シ
- 罪犯ヲナシタル所ニ於テ罰ハ科セラル可シ
- 罰ハ犯人ニ蒙ラシム可キ者ニシテ其他ノ人ニ蒙ラシム可カラス
- 何レノ事タリ凡人ノ犯ス所ノ事ニ從フテ其人ハ正ク罰セラル可シ
- 最小ナル施體ノ刑ハ罰金ノ何レノ高ヨリモ大ナリ
- 貴キ人ハ多シ金ヲ以テ罰セラル然レモ賤キ人ハ多

- ク身體ヲ以テ罰セラル
- 犯罪人ノ罰セザルコトナキカ爲ニ金ヲ以テ償フコト能ハザル所ノ人ハ其身體ヲ以テ罰セラレザル可カラス
- 何人モ同一ノ事ノ裁判所ニ現ハル、時二回罰セラ
- 一回ノ完済ハ常ニ之ヲ完済スル者ナリ
- 何人モ同一ノ事ニ付テ二回困シメラル、コトナシ
- 世界中一切ノ訴訟ハ若干ノ時期ニ由テ制限セラル
- 各箇ノ歎願及損害ニ付テノ訴訟ハ若干ノ時間ノ中

ニ限レリ

○裁判ニ付セラレタル所ノ旨趣、犯狀、條理、及一切ノ事

ハ確實ナル可シ 按スルニ旨趣ハ原告ノ之ヲ訴フル

ハ雙方申述ノ證據ナリ

○裁判ニ出タス可キ事ハ確實ナラサル可カラス

○明白ナラザル所ノ事ニ付テ裁判申渡ヲナス可カラ

ス

○裁判ノ効ヲ得ルヲ能ハザル者ノ訴訟ハ無用ナリト

○何人モ他人ノ名ニテ法律ニ訴フルヲ得ス

○何人モ訴訟ノ權ナクシテ法律ニ向フテ行クヲ得

ス而シテ何人モ訴願ノ文書ナクシテ訴訟ノ權ヲ行

フヲ得ス

○何人モ訴狀ナクシテ訴出スルヲ得ス

○裁判執行ニ付テノ書類ハ其式ノ不備ナルニ由テ其

効ヲ失ハス

○書手ニ由テナシタル錯誤ハ害アルヲナシ書手ノ錯

誤ハ改正ス可キ者トス

○裁判執行ニ付テノ書類ハ裁判申渡ノ原書ニ従フ而

シテ附従ノ者ハ其主タル者ニ従フ

○書シタル者ニ本ツク所ノ訴訟ハ其書シタル者ト異ナル可カラス

○詞訟ノ詰局ハ不服ノ語アルヲ要ス之ヲ詳ニセハ一方ニテハ是ナリトシ他ノ一方ニテハ之ヲ非トスルヲナキ時ハ詞訟ノ詰局アル可カラス

○兩様ノ一ヲ撰ム可キ願書ハ聽ク可カラス
○法律ノ規則ニ背キタル意見ヲ述ブル所ノ訴訟者ハ受理セララル、ヲナシ

○詐偽ノ答辯ハ一切ノ中最卑キ者トス
○時トシテ辯論ノ初見ニ於テハ正シキガ如クシテ終

ニ其害アリ且不公平ナル者ナリ

○言語ハ訴答ナリ 按スルニ訴答ノ説ハ言語中ニ含有スル者ナリ

○疑フ可キ口實ハ其口實ヲナス者ノ不利トナルヤウニ解セララル可シ

○二様ニ解ス可キノ答ハ其答ヲ爲ス人ノ害トナル可キヤウニ解ス可シ

○己レノ申述ニ反對スル人ノ説ハ聽ク可キ者ニ非ス 按スルニ原告被告ノ申述ヲ謂フ

○其事ヲ解クヲ訴訟ニ由テ求ムル所ノ同一ノ事ノ辯解ハ之ヲ提出スルヲ得ス

○若シ一箇ノ手續ヲ取消ス爲ノ訴訟ヲ出ス時被告ハ其手續ヲ妨ク爲ニ辯解スルヲ得ス此條ハ前項中原語ニシテ解ニ異同アリ

○其事ヲ解カント欲スルト同一ノ事ノ答辯ハ之ヲナス可カラス

○其事ヲ解カンヲ求ムル所ノ事ノ辯解ハ無効トス
○詞訟ノ目的トシテ其事ヲ放釋セント欲スル所ノ件ニ付キテノ答辯ハ効ナカル可シ

○法律ハ其必ナス可キ所ノ事ヲ已ニ之ヲナシタル者ト看做ス按スルニ人ノナシタル事其當然ニ之ヲナシタル可シト察セラル、者ハ之ヲ確實ノ

者ト看做シ必一々之ヲ窮詰シテ無用ニ時ヲ費ヤサズ

○若シ某ノ事物ノ必要ノ式ヲ欠クニ方リ情理裁判之ヲ要スル時ハ其欠ケタル者ハ助ケラル、ヲ得可シ

○情理裁判ハ人ノ自ラ爲ス可キ事ニ付テハ已ニ之ヲナシタルト察ス

○其ナス可キ所ノ事ハ容易ニ之ヲ假定ス可シ

○選擇ハ一ヒ之ヲナシ而シテ其詞訟ノ已ニ證セラレタル後ハ之ヲ取戻スヲ得ス按スルニ選擇ハ自己ト雖已ニ之ヲナシテ衆ニ證セラレタル者ハ之ヲ隨意ニ取戻スヲ得ス

○若シ爰ニ多般ノ方法アル時一ノ方法ヲ選ミタル人ハ他ノ方法ヲ恃ムヲ能ハス按スルニ一箇ノ裁判所ノ裁判所ノ助ヲ求ムルトヨ得ス此類是ナリ

○物ヲ選フトニ於テ一人一タヒ之ヲ選フトヲ好ミタル所ノ者ハ其後ニ至テ之ヲ争フトヲ得ス

○承諾ハ錯誤ヲ除去シ且之ヲ避ク按スルニ原被双方令錯誤アリ之ヲ錯誤トナサス假如バ訴訟ヲハ縦ニハ其訴アリ之ヲ錯誤トナサス出ツ可キ者ト雖原被双方ノ承諾ニ由テハ其承諾ニ由テ定ムル所ノ裁判所ニ出ツルヲ得ルノ類是ナリ

○各箇ノ承諾ハ錯誤ヲ除去ス
○裁判官タリト年金或ハ債金ヲ分ツトナシ按スルニ

定ノタル金額ハ月日ヲ以テ比例ヲナストナシ

○之ヲ分ツテ數部トナス可カラザル者俸給及ビ土地家屋ノ賃ハ全ク各自ニ付與ス可シ

○正直ナル仲裁ハ各人ニ其自己ノ物ヲ得セシム

○仲裁ノ決定ハ一箇ノ裁判ナリ

○仲裁ハ裁判ト相接スル者ナリ

○償金ハ争訟ヲ止ムル者ナリ按スルニ一ノ争訟アリ止ムル時ハ再其争訟ヲナス可カラズ

○何ニテモ顯ハレザル所ノ者ハ成立タサル者ナリ而シテ公然トシテ裁判官ヲ前ニ現出セス

○汝ハ數バ罰セラレタル所ノ事ノ數バ行ハレタル

ヲ見ル可シ按スルニ數バ行ノ所ノ罪惡ハ數バ罰セラレ可シ

○權利ノ爲ノ救助ハ常ニ寬大ニ之ヲ擴ム可シ

○掠奪ヲ被リタル人ハ何ヨリモ先ニ之ヲ取返ス可シ

按スルニ盜賊ハ己ニ之ヲ賣渡セル者ト雖モ其所有者ハ先ヅ之ヲ取返スヲ得

○裁判所ノ呼出狀ハ天然ノ權ヨリ生スル者ナリ按スルニ

此呼出狀ヲ受クル者ハ避ク可カラザルノ義務アル者トス

○雙方ヲ聽カスシテ某ノ事ヲ決定スル者ハ縱令ヒ正

シク之ヲ決定スルモ尚之ヲ不正ナリトス

○法律ハ要トスル所ノ者ヨリ更ニ多ク與フルヲナシ

○裁判官ハ原告ノ求ムル所ヨリ更ニ多ク與フルヲナ

シ

○裁判所ニ於テ自首シタル人ハ其人ニ裁判ヲ言渡シ

タルト見做シ而シテ恰モ自己ノ言渡ニ由テ罰セラ

レタル者ノ如シ

○無用ノ勞及利益ナキハ法律ノ効ニ非ス按スルニ

スニ方ノテ其訴訟ノ効ナクシテ勞シテ益ナキハ皆證據ノ不足ナルノ効ニシテ法律ノ答ニ非ス

○何事モ同一ノ場合ノ法律ノ種々ノ裁判所ノ別異ノ

見込ニ属スルヲヨリモ堪フ可カラザル者ナシ

○記録ヲ有セザル所ノ裁判所ハ罰金ヲ命シ或ハ人ヲ

○囚フルトヲ得ス何者ハ此權力ハ記錄ヲ有スル裁判所ニノミ屬スレハナリ

○裁判所ハ何事モ其己レノ前ニ在ラサル事ヲナスナシ

○何人モ其曲直ニ拘ハラス國王ノ裁判所ニ向フテ呼出狀ヲ要ムルトニ付キ罰セラル、トナシ
按スルニ呼出狀ハ原被告タル者ヨリ其證人ヲ呼出スルヲ求ムル為ノ者ナリ

○何人ノ説タリニ我輩ヲシテ人ノ出タセル更ニ善キ説ニ從フヲ得サルヤウニ之ニ從ハシムルトナシ
按スルニ古人ノ説ハ常ニ從フ可キ者トス然レハ後世ノ説更ニ之ヨリ善キ者アル時ハ又古人ノ説ヲ廢

○シテ後人ノ説ニ從フヲ得

○法律ノ一人ニ強ヒテ原因ヲ示サシムル所ニ於テハ其原因ハ正ク且ツ合法ノ者タル可キトハ必要ナリ
トス按スルニ民事ノ訴アル時裁判官ヨリ日ヲ刺シ如キ其何故ニ答辨ヲ求ム假如ハ金銀貸借ノ延滞ノ答辨ノ原因ハ必ス正クシテ合法ナル可シ否レハ其延滞ノ口實トナストヲ得ス

○預審ノ裁判申渡或ハ命令ハ之ヲ廢棄スルトヲ得然レニ終審ノ裁判申渡或ハ命令ハ之ヲ廢棄スルトヲ得ズ

○一字ノ無効トナル者ハ並テ其訴訟ノ全部ヲシテ無

効ナラシム 按スルニ英國ノ古法ニ據レハ訴訟ノ書
其説ヲ廢棄スルヲ得 中瑣細ノ錯誤アル者モ之ヲ口實トシテ

○故障ノ取除ケラレタル時ニ訴訟ノ權起ル 按スルニ
法律上ノ故障ヲ謂フ幼年瘋癲有夫ノ女等ノ如キ是ナリ

○國王ノ裁判所ニ於テ從犯ハ正犯ノ其事實ニ付テ答
メラル、ヨリ前ニ有罪ト決スルヲ正理ニ合ハザ
ル者トス

○損害ノ償ノ與ヘラル、所ニ於テハ曲者ハ直者ノ裁
判費用ヲ拂フノ裁判ヲ受ク可シ

○訴訟ノ他ノ方式ノ成立ツ所ニ於テ何人モ詐偽ノ訴

訟ノ方式ニ從フテ訴出スルヲ得ス 按スルニ民事
ハ要償ノ訴訟ノ方式ヲ用ヰテ足ル可シ此時ニ方
ツテ詐偽ノ訴訟ノ方式ヲ用ユルハ過酷ナリトス

○親切ナル意思ハ増加セラル可シ 離隙ハ之ヲ阻止ス
可シ 按スルニ原被双方ノ間ニ生スル親切ノ意思ハ
怒ノ情ヲ起サシメメ離隙ハ否セス凡双方ノ間ニ激
述セシムル時ハ其實ヲ得可キ者トス

○何人モ種々ノ答辨ヲ用ユルヲ禁セラル、一ナシ
按スルニ被告ノ己レヲ防護スルヲハ種々ノ方法
アリ今其一方又ハ他ノ方又ハ皆之ヲ用ヰルモ渾テ
之ヲ禁セス

○此事ハ裁判ヲ經タル者ナリ 按スルニ訴訟ノ雙方共
ル者ハ一タヒ其事ノ裁判セラル、ニ及ンテ之ヲ提
出スル時ハ裁判官乃チ曰ク此事ハ已ニ裁判ヲ經タ

去律各言 卷一 四十八

ル者ナリ

○書ヲ引用スルハ何事ニ付テ引用スルトノ事ヲ申述スルノ前ニ在テハ許サレザル可シ按スルニ裁判ノ例證ヲ引用セント欲スル者ハ先ツ裁判官ニ向テ其事ヲ引用ス可シト申述ス可シ若シ裁判官ニ於テ其引用ノ不當ナルヲ見ハ之ヲ許サバアル可シ此ノ如クナラザレハ無用ニ時ヲ費スノ憂アリ

○二箇ノ強迫ノ共ニ起ル各箇ノ詞訟假如ハ財産ヲ強迫スルハ及身體ヲ強迫スルハ如キ詞訟ニ於テハ其最怖ル可キ者及其最窘ム可キ者ヲ選フ可シ按ス英國ノ古法ニ據レハ負債主ハ負債者ノ財産ヲ押ヘ又其身體ヲ拘囚シテ負債ノ完償ヲ求ムルヲ得此ノ如キ詞訟ニ於テハ裁判官其事負債者ノ為ニ最怖ル可ク及最窘ム可キ者ヲ選ンテ之ヲ命スルハアリ

○若シ一箇ノ訴訟ノ只刑事ノミナル時其訴訟ノ始ニ方ツテ或ハ之ヲ刑事トシ或ハ之ヲ民事トシテ妨ケナレトス按スルニ刑事ヲ訴ヘズシテ民事ヲ訴フル其刑ヲ論ス可シ若シ只民事ナル時ハ決シテ刑事ヲ以テ之ヲ始ムルヲ得ス

○人ハ最上ノ救助ヨリ下等ノ訴訟ニ移リ又其助ヲ得ルヲ能ハス按スルニ已ニ上等ノ裁判ヲ經ル者ハ下等ノ裁判ニ由テ救正スルヲ得ザルガ如シ

○訴訟ノ權ヲ讓ラレタルトノ答辯ニ由テ其人ハ曲ナル按スルニ英國ニテ訴訟ノ權ノ讓渡サバハ時ノ格言ナリ

法律格言卷一終

法律格言卷一終

法律格言卷一終

